



ダム管理情報の収集と配信(大震災にも威力を発揮)

～無線回線により

風水害に強い通信手段の確保～



高柴ダムと四時ダムを管理している統合管理事務所は、いずれのダムからも直線で約7kmの距離に位置しています。

高柴ダムは、鮫川村を源とする鮫川の下流に位置し、四時ダムは鮫川支川の四時川に位置しています。

2つの河川はいわき市川部町で合流し、右岸側が錦町須賀、左岸側が佐糠町に位置する河口から、太平洋に注ぎ込んでいます。

このように2つのダムがひとつの河川に合流する位置関係から、四時ダムが建設された昭和59年4月に2つのダムを統合的に監視するために鮫川水系ダム管理事務所(統管)の運用を開始しました。

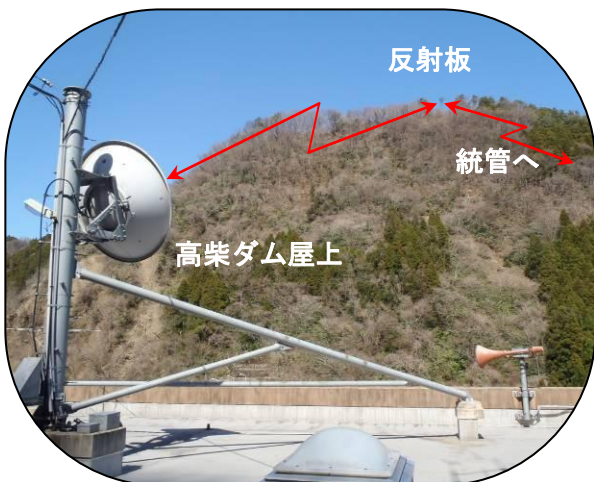
ダムの目的である、利水の有効活用、治水による下流河川住民の安全確保には、ダムの様々なデータを収集、分析的確な運用が求められます。

流域内の雨量やダム上下流河川水位のデータの収集にあたっては、テレメータにより一端ダム管理所に集められます。

収集された流域内の情報とともに、ダムの現在の状態を把握するための、貯水位、流入量、放流量、地震発生に伴うダム堤体の震度などとともに、統合管理事務所へ送信されます。

この通信手段として、マイクロ波を使った多重無線を利用し2つのダムの統合管理にあたっています。

有線による情報伝達は、平常時には有効な通信手段といえますが、大震災や台風・雷などの異常気象時には、落雷による停電や倒木による通信回線の破断等が懸念されます。無線回線は、発信局及び受信局に異常がなければ、通信を遮断されて情報の収集が出来なくなることはありません。



鮫川水系ダム管理事務所、高柴ダム管理所、四時ダム管理所、いずれも非常用自家用発電機を備えていることから、無線回線による情報収集は風水害による影響が一番少ない有効な通信手段といえます。

昨年9月には台風の影響により、高柴ダムへの東北電力の送電線が倒木で切断されました。幸いにも電話回線は切断されませんでした。有線で情報収集を行っていた通信ケーブルが切断されれば1週間ほど情報収集が出来ない状態となってしまう可能性があります。



高柴ダム反射板までの通路へ倒木

ダム管理に必要な情報を収集・配信するために流域内にはいくつかの設備があります。

設置されている場所は、点検のために車でも行ける条件の良いところもありますが、山頂にあり徒歩でなければ行けない場所もあります。

高柴ダム反射板は、車で行ける条件の良いところに設置されていますが、昨年9月の台風により根本部分で直径約50cmもある桜の木が道路を横切

るかたちで倒れ、反射板の点検が出来なくなる状態となってしまいました。

また、無線中継局がある高柴ダム山頂局へは徒歩で急な斜面を登らなければ行く事が出来ません。その途中にも多くの倒木があり点検に支障を来す状態となっていました。

直営で処理できる場合は、職員がチェーンソーやのこぎり、ナタなどで刈払撤去を行います。今回の倒木は職員が処理できる範囲を超えていたことから、専門業者に依頼し撤去を行いました。

当該管理施設だけではなく、施設へ到達するための道路や山道のパトロール、管理も重要な業務のひとつとなっています。



山頂局への斜面にも倒木が沢山

定期人事異動

よろしくおねがいします。

お世話になりました。



施設管理課から
業務課長：阿部雅彦



会津若松建設事務所から
所長：國分千尋



土湯道路管理事務所へ
前所長：高木茂



北郷麻由子
引き続きよろしく!!



施設管理課へ
前業務課長：関根盛道